

令和6年3月

令和5年度 委員会活動達成状況点検・評価報告書

千葉県立保健医療大学

自己点検・評価委員会 自己点検・評価実施推進部会

目 次

共通教育運営会議	1
特色科目運営会	2
入試改革検討委員会	3
入試実施委員会	4
教務委員会	6
FD・SD 委員会	7
学術推進企画委員会	9
学生委員会	11
進路支援委員会	13
研究倫理審査委員会	15
国際交流委員会	17
図書委員会	19
社会貢献委員会	21
自己点検・評価委員会	23
将来構想検討委員会	25
総務・企画委員会	27
広報委員会	28
衛生委員会	30
危機管理委員会	31
人事委員会	33
教員再任審査委員会	34
キャンパス・ハラスメント防止対策委員会	35

共通教育運営会議 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

1	<p>目標</p> <p>「千葉県立保健医療大学 教養教育のあり方について」に基づいて、一般教養科目・保健医療基礎科目の充実をはかる。</p>
2	<p>目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の後任候補決定プロセスの問題点を抽出し、教養教育のあり方に準拠した教育ができる教員を募集できるシステムを確立する。 一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の業務内容・業務負担における問題点を明らかにし、改善する。 一般教養科目・保健医療基礎科目のカリキュラム評価を教務委員会と共同で行う。
3	<p>目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
4	<p>達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 達成事項 後任候補決定プロセスについては、各学科・専攻の意向を聴取した上で共通教育運営会議にて募集内容を議決して後任候補を決定するというプロセスがある程度構築された。 一般教養科目・保健医療基礎科目のカリキュラム評価を教務委員会と共同で行った。 評価結果の理由と改善策 一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の業務内容・業務負担における問題点の評価は不十分であった。 申し送り事項 一般教養科目・保健医療基礎科目担当教員の業務内容・業務負担における問題点の評価を次年度以降行う。
5	<p>自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標達成に向けた活動は、計画に対して部分的に実施された。目標である一般教養科目・保健医療基礎科目の充実には質の高い保健医療専門職養成の基盤であるため、達成事項である担当教員の後任候補決定プロセスの構築は今後の各種教育に寄与する成果と言える。申し送り事項である担当教員の業務内容・業務負担における問題点の評価については、次年度着実に実施されることが期待される。</p>
	委員長：山本達也
	総括委員長：佐藤紀子
	面接日：2024年2月26日
	自己点検・評価実施推進部会：江戸優裕

特色科目運営会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標 患者・利用者中心のケアを促進できる人材育成をめざし、地域資源の活用によるサービスラーニングを拡充する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画 <ul style="list-style-type: none"> ・関連委員会と協働して「社会実習」を開講し、学生の自主性・ボランティア活動の活性化を促す。進捗状況の情報を共有し、科目の目標にそった役割分担を構築する。 ・次年度以降の「社会実習」について、長期的な指針を検討する。 ・学年ごとの特色科目における学修の積み重ねを検討・構築する。単なる知識伝達の科目構成ではなく、アクティブラーニングを効果的に用い、学生の専門職としての資質を成長させる内容とする。 </p>
<p>3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果 </p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 および 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献委員会および教務委員会と協同し、令和5年度社会実習を開講した（受講者 2名）。初年度は、令和5年度「ほい大プログラム」のみを履修の対象活動とし、カリキュラムや提出物の評価方法を確立するなど、作業部会員の連帯を通して、滞りのない開講に重点をおいた。自由科目の評価について、新たな指標を策定した。 ・次年度の社会実習シラバス作成にあたり、外部講師の選任や日程を学科間で調節し、科目の充実を諮った。「ほい大プログラム」以外の単位認定するシステムについて、他大学のボランティア科目の情報収集に努めた。 ・特色科目運営会構成員は、学年ごとの特色科目の作業部員でもあるため、学年ごとの科目の状況を把握しやすい体制であった。科目の課題（体験ゼミナール マナーについて）を特色科目運営会においても討議しマニュアルに反映させるなど、運営会において学修の積み重ねを検討した。 ・ 申し送り事項 「社会実習」における対象活動の拡大について、引き続き検討が必要である。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由) 具体的な活動計画を予定通り実施することができた。活動計画2点目の「長期的な指針」に基づき、社会実習の対象活動の拡大が期待される。 </p>
<p>委員長：島田美恵子</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子</p>
<p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：雨宮有子</p>

入試改革検討委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>1) 2025年度大学入学共通テストの新科目「情報Ⅰ」について調査・検討して各学科・専攻の選択方法及び配点を決定し、2023年6月末までに公表する。</p> <p>2) 推薦枠拡大について、学生確保への影響を調査する。</p> <p>3) 調査書等を活用した新たな面接試験方法について、学生確保への影響を調査する。</p> <p>4) 求める学生像に適した大学入学共通テストの利用の見直しを検討する。</p> <p>5) 編入制度の今後について検討する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>1) FD・SDを開催して教科「情報」と科目「情報Ⅰ」について理解を深め、各学科・専攻の選択方法と配点を決定する。</p> <p>2) 推薦枠拡大後に入学した2022年度卒業生の学習状況等から学生確保への影響を調査する。</p> <p>3) 調査書等の閲覧方法などを評価し、今後の運用に資するデータを収集する。</p> <p>4) アドミッション・ポリシーに適した大学入学共通テストの利用科目や配点、「国語」の利用範囲等を検討する。</p> <p>5) 大学機関別認証評価の指摘事項を参考に、編入制度の現状を調査する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) FD・SDを2回開催して県内の高校や教育委員会の「情報Ⅰ」に対する取組を調査し、その取扱いを令和6年度入学者選抜要項の令和7年度入学者選抜における変更予告で周知した。 2) 推薦枠拡大と新新カリキュラム・ポリシーの影響を調査した報告書を作成した。 3) 各学科・専攻の調査表を活用した面接方法を評価し、それらの影響を調査している。 4) 各学科・専攻でアドミッション・ポリシーを精査して理学療法学専攻の数学/情報及び理科の科目及び配点を見直し、その内容を令和6年度入学者選抜要項の令和8年度入学者選抜における変更予告で周知した。 5) 編入制度の現状と入学者に対する影響の調査に着手した。 ・評価結果の理由と改善策 <ol style="list-style-type: none"> 1) は目標を達成した。 2)、4) 及び 5) は新新カリキュラム・ポリシー変更後1年間限定だが、当初の目標を達成した。 3) は調査に着手したが、報告書の作成には至らなかった。 ・申し送り事項 <ol style="list-style-type: none"> 2)、4) 及び 5) は継続しての調査が望まれる。 3) は調査を継続のうえ、報告書の作成が望まれる。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標達成に向けた活動は計画通りに実施された。入試方法の検討、評価は、大学にとって重要な事項であるので、今後も継続的な改善に向けた活動が期待される。</p>
<p>委員長：菊池裕</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子</p>
<p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介</p>

入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>①本学のアドミッションポリシーに沿った学生を選抜するための一連の入試業務を公平・公正に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試実施業務：特別選抜・編入学試験・一般選抜・大学入学共通テストそれぞれが確実に、かつ効率的に実施されるよう、各段階における作業手順を見直し、実施要領を更新する。採点業務の効率化に向けて昨年度導入した方法を評価し、改良する。 ・入試問題作成：作問者への問題作成依頼、作成された入試問題の校正を実施し、適切な入試問題・解答用紙・採点基準を作成する。 <p>②インターネット出願を導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット出願に合わせ、選抜要項及び各選抜試験の募集要項の内容を変更する。 ・出願方法の変更について、大学ホームページ等を通して、受験生に周知する。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>■入試実施業務について</p> <p>6月：入学者選抜要項の完成・配布</p> <p>7月：特別選抜・編入学試験 監督者・面接者等の人選</p> <p>9月：特別選抜・編入学試験 募集要項の完成・配布</p> <p>10月：特別選抜実施要領・監督要領の完成・配布</p> <p>11月：一般選抜学生募集要項の完成・配布 一般選抜試験 監督者・面接者等の人選 特別選抜試験・編入学試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート</p> <p>1月：一般選抜試験実施要領・監督要領の完成・配布</p> <p>2月：一般選抜試験の実施 採点 合否判定 実施後アンケート</p> <p>■入試問題作成について</p> <p>4月：小論文作問ガイドの修正</p> <p>5月末：今年度入試問題作成担当者の選出・依頼</p> <p>7月～10月：特別選抜試験・編入学試験問題の校正</p> <p>10月～2月：一般選抜試験問題の校正</p> <p>11月初旬：特別選抜試験・編入学試験問題の完成・印刷</p> <p>2月初旬：一般選抜試験問題の完成・印刷</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <p>① 入試実施業務（特別選抜・編入学試験、一般選抜試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各入試の実施要領について、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う入試時感染対策の緩和の通知を受け、内容を修正した。また、実施状況に即した内容に加筆修正し、実施要領の改善を図った。 ・特別選抜・編入学試験前に、試験監督者を対象に説明会をWEBにて実施した。説明会后に質問を受け付け、疑問点を解消し、試験当日のトラブルなく終了できた。 ・昨年度導入した自動計算シートを使用し、採点業務を効率的に実施することができた。

・大学入学共通テストは東都大学との共同開催にて実施し、大きなトラブルなく終了できた。試験問題仕分けや問題引き渡し時の物品準備、監督者による試験室準備で課題がみられたため、次年度、改善できるようにする。

・能登半島地震により被災した受験生への配慮として、入学検査料の減免・還付や出願期間の延長などを執行部と共に検討し、ホームページ上に公開し周知した。

② 入試問題の作成

・特別選抜試験、編入学試験、一般選抜試験における小論文及び専門科目試験問題について、作問チームと校正チーム（入試実施委員長・副委員長・委員長指名の入試実施委員の3名）を編成し、オンラインにて、作問者と校正者との間で意見交換を行い、検討を進め作成した。

・特別選抜の学校推薦型入試において、採点段階で出題ミスが発覚し、受験生に不利益がない方法を検討した。合格発表前に報道発表及びホームページ上での公表を行い、学外からの問い合わせはなかった。再発防止に向け、執行部と協議した結果、解答と採点の試行を一般選抜入試から導入することとなり、学内教員から人選し、実施した。

・再発防止に向け、小論文作成ガイドの見直しを行っているところである。

③ インターネット出願

・県立高校で導入されていたインターネット出願方法を基に、特別選抜試験・編入学試験・一般選抜試験においてインターネット出願を導入した。委員会内で試行するなど導入に向けての準備を行い、トラブルなく出願受付できた。県の条例に従い、紙媒体での出願受付も継続した。

・6月に受験生向けに配布する選抜要項に、インターネット出願の導入、各選抜試験の募集要項の紙媒体での配布廃止について記載し、受験生に周知した。

・ 評価結果の理由と改善策

今年度の目標としていたインターネット出願を導入し、トラブルなく運用できたことは評価できる。各入試や大学入学共通テストでは、事前に実施要領を作成し説明会を開催して留意点を周知することで、大きな問題なく入試を実施することができた（一般選抜はこれから実施）。しかし、入試問題作成において、出題ミスがあり、問題点検方法について課題が残った。そのため、評価としては、改善余地ありとした。改善策として、出題ミスを防止するための確認ポイントについて、小論文作成ガイドや問題校正のマニュアルに具体的に記載する必要がある。

・ 申し送り事項

入試実施業務の詳細について円滑に引き継ぎ、入試業務が確実に実施されるようマニュアルを整備することは継続的な課題である。とくに、出題ミス再発防止に向けた小論文作成ガイドと校正チーム業務内容の追記、大学共通テストにおける問題仕分け方法、問題引き渡し物品準備と方法、試験室準備についての業務マニュアルの整備が必要である。出題ミスの再発防止策として、入試問題の解答・採点試行を導入することとなったが、入試問題作成における教員負担がさらに増加しているため、業者委託を検討・実施する必要がある。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要
(理由)

計画通りに遂行されている。特に、インターネット出願の導入は評価すべき項目である。次年度以降、改善策に挙げている出題ミス再発防止策について、検討をさらに進めることが期待される。

委員長：浅井美千代

総括委員長：佐藤紀子

面接日：2024年2月22日

自己点検・評価実施推進部会：栗原涼子

教務委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

1 目標
1. 現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正の検討 2. 大学設置基準の一部を改正する省令の交付に関わる学則やシラバス表記などの改正の検討 3. 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）の推進
2 目標達成のための具体的な活動計画
1. 現行カリキュラムは2022年度をもって一通りを終えたため、各科目（一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目）のカリキュラム評価を行い、カリキュラム改正に向け推進する。 2. 大学設置基準の一部を改正する省令に対応し、本学の修業年限、授業時間を改正するか否か、シラバスの記載要領・様式の変更の必要性の検討を行う。改正する場合は、学則の変更が必要となり、その内容を検討する。 3. 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）に対する知識と認識を深めるために、FDを開催する。
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な成果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. カリキュラム評価部会を立ち上げ、カリキュラムポリシーの見直しおよびカリキュラム評価を実施。 2. 大学設置基準の一部を改正する省令に対応した修業年限、授業時間については、改正しないことを決定した。シラバスの記載要領・様式の変更の必要性の検討のために、3月22日に「シラバス作成」というテーマでFDを開催し、次年度以降、カリキュラム改正の検討と同時に検討予定。 3. FDの開催は未実施。自己主導型学習の実施状況に関するアンケート調査を実施。回答の得られた科目136科目中90科目（66%）で自己主導型学習が導入されていた。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>1、2に関しては、目標通りとなっている。3に関しては、実態調査のみとなり、FD開催に至らなかった。3は引き続き次年度の目標とし、実施する。</p> ・ 申し送り事項 <p>今年度のFDの内容を踏まえた上で、カリキュラム改正にあわせ、シラバスの記載要項・様式の変更の必要性の検討を行う。また、自己主導型学習に対する知識と認識を深めるために、教員間の意見交換会やFDの開催を検討する。</p> <p>本年度作成したカリキュラムポリシーに基づき、カリキュラムおよびアセスメントポリシーを作成する。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 (理由)
現行カリキュラムの評価を行い、カリキュラムポリシーの見直しなどカリキュラム改正に向けて計画どおり進められている。次年度以降のカリキュラム改正やシラバスの記載要領・様式の変更、自己主導型教育の推進に継続的に取り組まれることが期待される。
委員長：堀本佳誉
総括委員長：佐藤紀子
面接日：2024年2月26日
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

FD・SD委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023年度)

<p>1 目標 FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するシステムの構築</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画 (FD・SDマップを参照に実施)</p> <p>① 社会貢献 (レベル1程度)社会貢献のニーズを把握する企画・実施(社会貢献委員会)</p> <p>② 教育 (レベル1程度)シラバスの作成方法(教務委員会)/教育倫理(社会貢献委員会) (レベル2程度)指導困難学生への教育(FD・SD委員会)/学生相談・学生支援の実践(学生委員会) (レベル3)教育経験の浅い教員に指導(キャンパスハラスメント(以下 CH)防止委員会担当で検討)/学生支援と進路支援に関して指導・管理(学生委員会)</p> <p>③ 研究 (レベル2)文献検索、文献レビューのスキルアップ(学術推進企画委員会)/英語論文作成、英語論文投稿など(学術推進企画委員会)</p> <p>④ 管理・運営 (レベル1)コミュニケーションスキルに関して理解を深める(CH防止委員会担当で検討)/教員の説明能力を高める(学生委員会、CH防止委員会担当で検討) (レベル2)コミュニケーション能力を高める(FD・SD委員会)/問題解決能力(企画運営課)・創造力を高める(CH防止委員会検討) (レベル3)部門内組織マネジメント(FD・SD委員会から学長へ依頼)の企画・実施</p> <p>⑤ 各FD・SDにおけるアンケートを含め、報告書などの提出方法を統一し、実施。</p> <p>⑥ 検討課題として、SDを中心に活性など目標に企画運営課長と行う。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価) <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・ 達成事項</p> <p>1 社会貢献 (レベル1程度)社会貢献のニーズを把握する企画・実施⇒「将来構想にかかる情報共有・意見交換」3月12日実施予定(ハイブリッド)(社会貢献委員会)</p> <p>2 教育 (レベル1程度)シラバスの作成方法と教育倫理⇒「シラバス作成」令和6年3月22日実施予定(教務委員会)/教育倫理⇒次年度検討(FD・SD委員会で検討後、社会貢献委員会で検討確認) (レベル2程度)指導困難学生への教育と学生相談・学生支援の実践、及び(レベル3)学生支援と進路支援に関して指導・管理⇒「『発達障害』の学生への対応について」11月2日実施、26名参加(学生委員会)/「医療系大学における教職員の進路支援」11月29日実施、28名参加(進路支援委員会) (レベル3)教育経験の浅い教員に指導⇒次年度検討(CH防止委員会からFD・SD委員会へ移行)</p> <p>3 研究 (レベル2)文献検索、文献レビューのスキルアップ/英語論文作成、英語論文投稿など⇒イブニングセミナー「論文の構成と書き方—投稿から掲載まで 論文著者が知っておくべきポイント—」4月13日実施、教員参加(学術推進企画委員会)/「ヘルスサイエンス系論文/学術流通の最新動向」9月12日実施、39名参加(学術推進企画委員会)/「さがす・読む・伝える：情報検索のコツとフェイクニュース」9月26日実施、教員参加(学術推進企画委員会) (レベル3)研究の管理運営ができる⇒「安全保障輸出管理の初心者向け概要など」78名参加(研究倫理審査委員会)</p>

(レベル3)研究における協働活動を運営できる⇒「地域医療連携システムについて」5月9日実施、教員参加(学術推進企画委員会)

4 管理・運営

(レベル1)コミュニケーションスキルに関して理解を深める教育⇒「指導が難しい学生への指導」11月2日実施、26名参加(学生委員会)

(レベル1)教員の説明能力を高める方法、コミュニケーション能力を高める方法⇒次年度検討(CH防止委員からFD・SD委員会へ移行)

(レベル1)大学の歴史、理念、組織、国・県の理解を深める⇒「大学の成り立ちと人材育成の目標」4月実施、新入教員7名参加(学長)

(レベル1)ハラスメントに対する関心を高める⇒「ハラスメントの予防や訴訟問題などに関する教職員向けFD・SD」12月13日実施、35名前後参加(CH防止委員会)

(レベル2)問題解決能力⇒「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」9月12日実施、26名参加(教員14名、事務職員12名)(企画運営課)

(レベル2)創造力を高める⇒次年度検討(CH防止委員会からFD・SD委員会へ移行)

(レベル3)リスクマネジメント能力が高まる⇒「R5年制定の「危機管理の方針」に基づいて」2月20日から3月1日まで(オンデマンド)開催中(2月22日現在)(危機管理委員会)

(レベル3)交通違反・事故防止(安全運転管理)⇒「安全運転管理の徹底について」1月25日から2月5日まで(オンデマンド)、53名(教員46名、職員7名)(企画運営課)

(レベル3)部門内組織マネジメント⇒「医療安全を学ぶ-保健医療者としてのリスク管理」令和6年3月27日実施予定(学長)

5 その他：各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法の統一を実施中。修正検討の上、次年度継続実施。

・評価結果の理由と改善策

今年度課題であったSDを中心に「安全運転管理の徹底について」「千葉県職員倫理条例及びコンプライアンスについて」「事務ミス防止について」等多岐にわたって目標の達成を果たせた。改善点として、FD・SDマップによる活動計画の担当委員会の見直しがあり、「教育倫理」「教育経験の浅い教員に指導」「教員の説明能力・コミュニケーション能力」「創造力」について、検討・実施が遅れた。企画運営課担当のSDやFDの実施・活性化が図られた。各委員会でのFD・SD実施後の報告書を当委員会へ提出する方法について、簡便かつ確実にできる方法を検討・実施したい。

・申し送り事項

FD・SD委員会の主導により、教育経験の浅い教員を対象に、指導、教育倫理、教員のコミュニケーション能力等について企画・所掌の検討と実施を図りたい。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

目標達成に向けた活動は、計画の見直しの影響もあり部分的に実施された。ただし、全体的に見ると各委員会との連携により様々な分野でのFD・SDが開催されており、教職員の資質向上につながる活動が実施されている。今年度の課題となった計画変更時の迅速な対応や、申し送り事項にあるFD・SDについては、次年度着実に実施されることが期待される。

委員長：岡村太郎

総括委員長：佐藤紀子

面接日：2024年2月22日

自己点検・評価実施推進部会：江戸優裕

学術推進企画委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本学の学術研究活動の活性化を図る. 2. 広く学内共同研究課題を募集し公平・公正に審査する. 3. 外部資金, 特に科研費の獲得を促進する. 4. 広く紀要原稿を募集し円滑に編集・発行する.
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>本学の学術研究活動の活性化</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学術研究活動の活性化に資するようなイブニングセミナーを企画, 実施する. 2. <u>学内共同研究課題の募集と審査</u> <ul style="list-style-type: none"> ・広く学内共同研究を募集し公平・公正に審査する. 3. <u>外部資金, 特に科研費の獲得の促進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新たに研究支援サービスを導入予定. 科研費計画調書の添削, 科研費申請スケジュール管理, オンデマンドまたは対面の科研費セミナーなどが提供される予定. ・数値目標として科研費等競争的外部資金及び学内共同研究申請率(以下「科研費等申請率」)80%, 科研費採択率 30%を設定する. 4. <u>紀要の募集・編集・発行</u> <ul style="list-style-type: none"> ・広く紀要原稿を募集し円滑に編集・発行する.
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項, 評価結果の理由と改善策, 次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>本学の学術研究活動の活性化</u> <p>計 4 回のイブニングセミナーを実施した. テーマは 1. 論文執筆法, 2. 地域医療連携システムと Dx, 3. 学術流通, 4. 情報検索. 事後アンケートはいずれも約 80~100%が「満足」または「まあまあ満足」と回答し, 同じく約 80~100%が「今後の教育・研究の参考になった」と回答した.</p> 2. <u>学内共同研究の募集と審査</u> <p>事務局作業の遅滞があったが定められた手順に従い運営した.</p> 3. <u>外部資金, 特に科研費の獲得の推進</u> <p>予算計上のうえ新たに民間による研究支援サービスを導入した. 科研費計画調書の添削, 科研費申請スケジュール管理, オンデマンド科研費セミナーなどが提供された. 事後アンケート (n = 7 名/全 16 件)では 7 名 (100%)が「とても」または「まあまあ役に立った」と回答した. 科研費等申請率は 107.9%であり 2021 年度の 86.3%, 2022 年度の 90.9%から増加傾向かつ数値目標 (80%)を達成した.</p> 4. <u>紀要の募集・編集・発行</u> <p>事務局作業の遅滞があったが定められた手順に従い運営した.</p> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>イブニングセミナー当日の運営, および委員会・部会運営における事務局のサポートに課題がある. 事務局と連携を密にし, スムーズな運営に努める.</p> ・ 申し送り事項 <p>外部による研究支援サービスは 2024 年度も継続予定.</p>

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要	
(理由)	
<p>目標に向かう具体的な活動計画に基づき、確実な実施とともに科研費等申請率の大幅アップという成果が得られた。次年度へ向けた課題や申し送り事項も成果に基づき妥当で具体的なものと考えられる。</p>	
委員長：太和田暁之	
総括委員長：佐藤紀子	
面接日：2024年2月26日	
自己点検・評価実施推進部会：雨宮有子	

学生委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の方針（ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善 ・卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>12分野でのとりくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学内整備：学習環境の点検・特にロッカー室整備 ② 学生会：会計監査指導・新役員への活動支援 ③ いずみ祭の実施 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理 ⑤ 売店・自動販売機 ⑥ 卒業式（同窓会から花の設置、写真など） ⑦ 学生対象セミナー実施（ブラックバイト、DV防止など） ⑧ 同窓会との連絡（各学科専攻でホームカミングなどを実施） ⑨ 学生からの相談内容把握（アンケート調査による） ⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：駐輪マナーの周知・徹底および必要に応じた駐輪場の整備 ⑪ 後援会：加入者増加への支援（入学式でブースの設置など） ⑫ FD開催（教員向けに学修支援など）
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 ① 学内環境の点検については、企画運営課でWi-Fi環境を調査していただき、9月に強化したが、あまり改善されていない。また、トイレについては、順次和式から洋式に変える予定となっている。ロッカー室に関しては、現行のまま使用している。 ② 学生会とは密にコミュニケーションをとり、会計監査指導、新役員への活動支援を行うことができた。また、学生会のSNS開設の許可を頂くことができた。 ③ いずみ祭（10月8日、9日）の実施は、準備の遅れや情報共有の仕方に問題があったが、学生たちが力を合わせて、4年ぶりに対面で開催することができた。来場者数は8日（晴天）455名、9日（雨天）241名で計696名だった。反省点を振り返り、次年度に向けて改善できるように指導を行った。 ④ 後援会から寄贈していただいた物品には、シールを貼り管理することができた。 ⑤ 売店・自販機販売については、学生のニーズ調査を実施し、本学教員で結果を共有した。後援会と学生支援課で話し合いを行っている。お試してキッチンカーの導入を検討中。 ⑥ 卒業式のお花については、各学科専攻の分科会が輪番制で手配している。写真については、業者に依頼し、費用は後援会に助成していただく予定になっている。 ⑦ 学生対象のセミナーについては、8月9日から9月8日に「ブラックバイトセミナー、DV対策セミナー」、11月27日から12月22日に「食品中の放射性物質に関わるビデオ教材」をオンデマンドで配信した。視聴回数はブラックバイトセミナー50回、DV対策セミナー71回であった。アンケートはブラックバイトセミナーで1件のみしかなかった。 ⑧ 同窓会会長と連絡をとり、分科会からいずみ祭への寄付依頼を行った。各学科専攻でホームカミングデーや懇話会などを企画し、実施することができた。また、年度末までに、交流会を遠隔で実施予定。 ⑨ 学生からの相談件数については、前期分はアンケートを実施し39名から回答をいただいた。相談件数が多い項目として、「学習に関すること」「キャリア形成」「学習環境支援に関すること」が挙げられました。後期分は2月中旬から下旬にかけて実施予定。

<p>⑩ 幕張キャンパスの駐輪場については、特に問題なく使用できている。必要に応じて、駐輪ラインの引き直しを実施する。</p> <p>⑪ 後援会の加入者減少問題に関しては、入学式の際にブースだけでなく、学生も同席させ、学生会の活動が後援会の支援でできていることを周知できるよう、大学運営会議において対応を検討していただいた。</p> <p>⑫ FDに関して「発達障害の学生の対応について」をテーマに11月2日に開催できた。アンケートの回答は26名で、セミナーの内容に関して「満足」と「やや満足」で約92%と大変好評であった。オンラインでの対応が出来なかったため、FD/SD委員会で事務局に対応していただけるように要望し、検討していただくことになった。</p> <p>⑬ 上記①～⑫の取組の他、3点の追加事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対し、本学のAED設置場所を周知し、AEDの取り扱いの知識をつけていただくために、消防庁がインターネット上で公開している「応急手当WEB講習 普通救命講習編」を受講後、「受講証明書」を提出させた。3名の学生が未受講であった。 ・学生向け講習会を8月9日に実施できた。千葉西警察の方に「犯罪に巻き込まれないように、特殊詐欺や薬物関係の話を実際の経験を踏まえて防犯講話」をしていただき、155名の参加があった。 ・自己健康管理ファイルで、ワクチン接種の結果を糊付けするようになっていたが、結果を貼らない学生が多いため、次年度から糊付けをせず、クリアファイルに変更し、その中に保管させることになった。 <p>・ 評価結果の理由と改善策 学生ハンドブックに記載されている学生支援は概ね実施できているが、学内の設備や売店・自販機に関しては、事務局で県との調整をしていただき、改善をお願いしたい。また、卒業生に対しては、各学科専攻で分科会と交流はできているが、本学としての教育支援やキャリア形成支援体制の整備はできていない。今後、分科会と話し合い、卒後の教育支援ができるように検討したい。</p> <p>・ 申し送り事項 学内の設備や福利厚生については、学生や保護者からの意見を、事務局から県にあげていただき、学生がより良い環境で学生生活を送れるようにする必要がある。また、卒後の教育支援については、分科会の役員の方と話し合い、本学の支援体制整備が必要と考える。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input checked="" type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>教育環境整備は、事務局、後援会と連携のもと、着実に実施されている。いずみ祭はコロナにより対面開催ができず、開催ノウハウの引継ぎもままならない中、4年ぶりに対面で開催し、約700名の来場を得た。また学生対象セミナー及び講習会、教員FDは時宜にかなった企画が行われた。委員会による学生支援の取り組みは、掲げた活動を着実に実施し、かつ実績を出しており、目標を上回っていると評価した。</p>
<p>委員長：細山田康恵</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子</p>
<p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介</p>

進路支援委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <p>所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100% (全学科) をめざし、学科専攻と連携を図り大学全体として取り組んでいく。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>年度当初に、国家試験受験対策および就職進学 (県内就職促進) 支援の年間計画を学科ごとに作成し、委員会開催時にそれぞれの進捗状況を報告し、学科間で情報共有し、討議し、次の活動へのヒントとする。主に 3 年次生を対象としたキャリアセミナー年間 3 回、ジョブカフェを年間 3 回実施する。また、他大学の進路支援について、FD を実施する。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・達成事項</p> <p>① 年度当初に作成した進路支援計画に沿い、全学及び各学科専攻で、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施できた。</p> <p>② 全学でのキャリアセミナー第 1 回は 8 月 9 日 (水) 「就活の進め方」について、第 2 回は 8 月 24 日 (水) 「公務員業務説明会」を実施できた。第 3 回は 3 月 12 日 (火) 「就職活動に必要なマナーのツボ」を実施予定である。第 1 回は例年通り、千葉市新卒ハローワーク・就職支援ナビゲーターの方に講師を依頼し実施した。第 2 回の公務員セミナーに関しては、昨年度まで、外部の業者に依頼していたが、費用がかかり宣伝が多いことから、千葉県職員 4 名の方に変更して実施した。第 3 回の就職活動に必要なマナーのツボに関しては、2013 年度から本学のセミナーでご講演いただいた講師の方から、現況に合わせて、イメージプロデュース協会に変更した。</p> <p>③ 各学科専攻におけるキャリアセミナーも滞りなく、進捗することができた。</p> <p>④ ちば若者キャリアセンタージョブカフェちば第 1 回は 6 月 19 日 (月) 「自己 PR 作成セミナー」、第 2 回は 9 月 25 日 (月) 「エントリーシート対策セミナー」を実施できた。第 3 回は 2 月 28 日 (水) 「個人模擬面接セミナー」を実施予定である。</p> <p>⑤ ハローワークによる個別就職活動支援は、看護 28 名、作業 15 名の予約が 43 件あり、7 月～8 月にかけての利用が多かった。進路情報室の活用は、看護 95 名、栄養 9 名、歯科衛生 61 名、理学療法 0 名、作業療法 7 名の計 172 名であった。(1 月 17 日時点)</p> <p>⑥ 進路支援委員会 FD を 11 月 29 日 (水) 「医療系大学における教職員の進路支援」を実施した。対面参加者が 27 名あった。アンケート結果からは、セミナーの内容について「満足」・「やや満足」が約 8 割と大変好評であった。質疑応答も活発に行われ、参加者の関心の高さが伺えた。</p> <p>・評価結果の理由と改善策</p> <p>全学キャリアセミナーおよびジョブカフェちばに参加した学生のアンケート結果は、概ね好評であった。今年度から変更した第 2 回キャリアセミナーに関しては、学生さんから、千葉県病院局の各病院の看護方式、保健所保健師の業務等について深く知ることができた。また、専門資格を持つ公務員の仕事内容や現状について様々な情報が得られたと大変好評であった。次年度以降も千葉県職員の方に講演していただく方向で検討していきたい。第 3 回キャリアセミナーに関しても、学生さんのアンケート結果を踏まえ、継続を検討していく。また、FD に関してのアンケート結果は概ね好評であった。</p>

<p>・申し送り事項</p> <p>全学でのキャリアセミナーやちば若者キャリアセンタージョブカフェちばに参加する学生が多くなるように、学科専攻内での周知を徹底していく。3年生主体ではあるが、1・2年生にも参加を促していくのが良いと思われる。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>キャリアセミナーやジョブカフェ、さらに他大学の進路支援について、FD を開催し、進路支援や国家試験受験支援に取り組まれている。主体学年以外の低学年に対する進路支援などの課題については、次年度以降検討が期待される。</p>
<p>委員長：細山田康恵</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子</p> <p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：栞原涼子</p>

研究倫理審査委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <p>① 毎月の委員会での研究倫理審査業務の実行。</p> <p>② 今年度新設予定のデータ管理に関する部会を円滑に組織・運営する。</p> <p>③ 昨年度から継続している「リモート研究」や「データの収集と管理」についての今後の審査方針の整備を今年度も継続する。</p> <p>④ 委員会での倫理審査過程における改善点を見いだし、修正する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①については毎回の委員会での倫理審査を着実に行う。</p> <p>②は新部会の規程案の提出を受け委員会で審議する。</p> <p>③については他大学の動向などを参考に、毎回の委員会での研究倫理審査の議論を通じて行う。</p> <p>④は実際に倫理審査を行う中で各委員に気づいた点を指摘していただき、修正を図る。</p>
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <p>① <u>毎月の委員会での研究倫理審査業務の実行。</u> 今年度申請された案件は順当に処理した。</p> <p>② <u>今年度新設予定のデータ管理に関する部会 (安全保障輸出管理部会) を円滑に組織・運営する。</u> 現時点 (2/14) でまだ新部会は発足に至っていないが、部会の規程案の審議を臨時に委員会を開催して行い、また周知のための FD・SD を開催するなどして、新しい部会の新設の準備を進めることができた。</p> <p>③ <u>昨年度から継続している「リモート研究」や「データの収集と管理」についての今後の審査方針の整備を今年度も継続する。</u> 最も重要な変更として、本学 Teams よる学外の研究者間とのデータ共有やデータ管理を、今年度より方針を転換して認めることにした。これは本学の情報ネットワークについてのワーキンググループでの議論を参考にして決定に至った。</p> <p>④ <u>委員会での倫理審査過程における改善点を見いだし、修正する。</u> 申請書類の電子化を検討し電子申請が可能な仕組みを作り来年度 (4 月) から施行予定になっている。</p> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>① 毎回の委員会での審査を目標通り着実に実行できた。来年度も同様にすべきである。</p> <p>② 安全保障輸出管理部会を作るための必要な準備 (規程案の審議、周知のための FD・SD 開催など) を実行できた。今後、実際に部会が立ち上がって運営していけるように務める。</p> <p>③ 「リモート研究」や「データの収集と管理」で、特に社会状況の変化に応じて研究におけるネットワーク利用について研究倫理審査での扱いを十分検討し、路線を変更し昨年度まで認めていなかった手続きを認めることとし研究者の利便性を上げることができた。このような研究における情報の取り扱いは今後も改善する必要があるが、セキュリティの視点も十分考慮する必要がある。</p> <p>④ 来年度 (4 月) から申請書類の電子化を実行できるようにした。今後実際に実行したときに順調に運営していけるか注視していく。</p> ・ 申し送り事項 <p>「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」とその関連文書の近年の改訂に応じて本学の倫理審査申請書類書式の改訂を検討する必要がある。</p>

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	
□5 特に優れている □4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している □2 やや問題あり改善余地あり □1 問題あり改善必要	
(理由)	
具体的な活動計画に基づき、実施されている。特に、安全保障輸出管理部会の新設に伴う組織化やFD開催等の準備、「リモート研究」や「データの収集と管理」について具体的な方針が決定されたことは評価できる。安全保障輸出管理部会の運営や倫理審査申請書類書式の改定の検討に取り組まれることが期待される。	
委員長：加瀬政彦	
総括委員長：佐藤紀子	
面接日：2024年2月21日	
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉	

国際交流委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外における国際交流活動を促進する。 ・多（異）文化交流を体得できる学びの機会の提供（在り方）について検討する。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「初期医療言語サービスボランティア研修」について、2023年度も継続開催し、本学学生参加者の増加を目指す。 ② 協定締結校である Inje 大学とは、2021年度に教員間でのシンポジウムを実施したが、その後交流の機会がない現状から、2023年度は学生間の交流（オンラインでの学術的および多文化交流）の在り方とその可能性について、2024年度実施を視野に協議・検討する。 ③ 国際的な視野を持ち、社会に貢献する次世代を担う人材を輩出するべく、多（異）文化交流を体得できる学びの機会の提供（語学の習得を含む異文化理解をテーマとした学生対象のセミナー開催など）について検討する。
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 本学と神田外語大学の共催で行われる「初期医療言語サービスボランティア研修（令和5年度より「外国語による応急処置体験講習」に改名）」は、令和6年3月9日に開催予定である。今年度は、両大学合わせて定員40名とし、1月15日より参加者募集を開始したところで、現在順調に参加人数（2月17日現在；本学18名、神田外語大学10名）をのびしているところである（昨年度参加者実績；本学6名、神田外語大学9名）。応急処置の際の英会話講義と手技の体験に加え、両大学の学生交流の時間にも配慮したセミナー構成としている。 ② 活動計画①（令和4年）および③（令和5年）の参加者事後アンケートでは、セミナー参加学生が他大学学生との交流を求めていることが示されていた。今年度すでに実施された③の事後アンケートでは、今後セミナーで取り上げて欲しい内容として、「海外の方と交流する機会があれば嬉しい」というコメントがあったことから、令和6年度以降は、外国人留学生を含む海外の方と交流を持てる機会を提供するべく、現在その実施方法・内容について検討中である。 ③ 令和5年度は新たな取り組みとして、留学経験を有する本学卒業生による講演；留学から学んだ国際対応力に関するセミナーを令和5年8月24日に開催することができた。講演後の質疑応答の時間には、参加者からの質問も多くあり、講演者（卒業生）、参加学生ともに有意義な時間を共有することができた。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ① 本講習は今年で第3回を迎え、神田外語大学との打ち合わせにおいては、令和4年度までの経験や反省を踏まえた講習構成、参加者募集方法を検討することができた。今年度の参加者事後アンケートを踏まえて、より良い講習となるよう尽力・継続していきたい。 ② 上記の達成事項②に記載したとおり、今後は多文化理解に加え、実際に海外の方と交流できる機会を学生に提供する必要があると考える。現在検討している具体的な内容としては、国際理解教育の一貫として、県内に在住する留学生（大学生）との交流会イベントを検討している。本学学生と留学生を含む海外の方と交流を持つことで、互いに多文化理解を深められるような機会を提供していきたい。 ③ 本セミナーは講師との日程調整の都合もあり、夏休み期間中の開催となり、限られた参加者（24名）ではあったものの、受講者事後アンケートでは高い満足度（“満足”88%、“やや満足”12%）を得ることができた。先輩（卒業生）から海外での学び・生活で苦労

<p>したこと、その経験が現在の仕事にもいかされていることなど、留学経験者の生の声を聴くことで、多文化理解を深める機会も提供することができたと考える。</p> <p>・ 申し送り事項</p> <p>本学と神田外語大学の共催で行う「外国語による応急処置体験講習」は、次年度以降も継続開催する。また新たな取り組みとして、県内在住留学生（大学生）と本学学生との交流会イベントの企画・実施により、互いに多文化理解を深められるような機会を提供できるよう力を尽くす。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>目標に向かう具体的な活動計画に基づき、確実な実施とともに学生からの高評価も得られた。次年度へ向けた課題や申し送り事項も具体的かつ実現可能なものと考えられる。</p>
<p>委員長：谷内洋子</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子</p>
<p>面接日：2024年2月21日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：雨宮有子</p>

図書委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>① 学生の図書館利用及び文献活用を推進する。 評価指標：コロナ前と同等の利用状況の確保</p> <p>② 学生教育及び教員の研究活動に資する資料の収集・整備を継続する。 評価指標：計画通りの予算執行</p> <p>③ 卒業生等の学外利用者の増加を図る。 評価指標：コロナ前と同等の利用状況の確保</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 文献検索セミナー2回（3年生、幕張・仁戸名各1回）を開催し、評価・改善を行う。 文献検索ガイダンス5回（卒業研究前、学科専攻毎）を開催し、評価・改善を行う。 学生向けの推薦図書を配架する。</p> <p>② 学生向け推薦図書の配架や電子ジャーナルへの移行推進等、計画的に予算を執行する。</p> <p>③ 学外者に対する図書館の情報発信を充実させる。（卒業生への情報発信、図書館だよりの評価・改善、HPへの掲載、他）</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満足な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 各学科・専攻の学生を対象に、合計5回の文献検索ガイダンスが、例年通り滞りなく実施された。文献検索セミナー2回（オンデマンド開催：動画2本）を各学科・専攻の実施希望時期に実施した（年度末までに視聴）。 ② 1月末までに図書購入予算の96%が執行済みとなった。残額についても年度内に執行予定である。 ③ 図書館だよりの満足度と感想を問う無記名 Forms アンケートを実施した。8名の回答者から高評価と休日の開館状況について問い合わせを得た。図書館だよりのHP上にも掲載し、千葉市図書情報ネットワーク加盟館紹介展で配布した。学外者利用者数は、卒業生含め令和元年度の31%とコロナ制限前には戻らないものの前年度比172%であった。 ・ 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ① 文献検索ガイダンス：対象学年の学生に適切に実施され、アンケートの結果からも、図書館職員の説明はわかりやすく、理解が深まったという回答が大多数であり、内容に関する改善点は特にない。文献検索セミナー：オンデマンド開催のため全学科・専攻学生に視聴の機会が得られた。 ② 各学科・専攻の推薦図書が各々に割り当てられた予算額に達しない場合も、図書館が本学の教育・研究に有用な資料を選定するなどした結果、順調に執行されている。 ③ 図書館だよりのアンケート実施やHP上の開示と、より利用者が親しめる工夫と学外者へ向けての情報を発信に努めた。学外者利用者数は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い増加していくと推測される。 ・ 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> ① オンデマンド開催は各学科・専攻が実施時期を選択可能なため次年度も依頼を希望する。 ② 引き続き学科推薦や図書館選定など多様な方法で蔵書の充実を図っていく。 ③ 引き続きアンケートを実施して結果を公表し、開館日を可能な限り増やし情報発信する。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5 特に優れている 4 目標を上回っている 3 目標に達している 2 やや問題あり改善余地あり 1 問題あり改善必要

(理由)

図書館利用推進の活動は目標通りに行われている。文献検索セミナーはオンデマンド配信として必要時に視聴できるよう配慮がなされた。図書購入も計画通りに執行が行われている。アンケート実施により評価を行うなど、活動のマネジメントが適切に行われている。

委員長：石井邦子

総括委員長：佐藤紀子

面接日：2024年2月22日

自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介

社会貢献委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会貢献に関する FD/SD を開催し、本学が果たす社会貢献の質向上に努める。 ② 社会のニーズを踏まえた公開講座を企画・実施する。 ③ 公開講座の充実に向け、今後の改善や充実を検討する。 ④ 全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」を UR 都市機構と千葉県内の地域で計画・実施する。 ⑤ 「ほい大健康プログラム」の今後の方向性を検討する。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会貢献に関する FD/SD を 1 回開催する。 ② 社会のニーズを踏まえたテーマを設定し公開講座を 2 回実施する。 ③ 「ほい大健康プログラム」を UR 都市機構と共催で 3 回、いすみ市と共催で 2 回、大学近隣住民対象で 2 回実施する。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ① 将来構想検討委員会と共同開催の「社会貢献事業の取組まとめと今後の展開について」FD/SD(レベル 1)は 3 月 12 日に開催予定である (2 月 28 日現在)。 ② 「人生 100 年時代を元気で乗り切るために」をメインテーマとし、看護、栄養、リハビリ (理学)、歯科衛生の 4 学科の講師により、対面 (1 回目) と、オンライン (2 回目) の公開講座を開催した。1 回目は大学祭と同日開催で 101 名、2 回目は Zoom ウェビナーで 46 名の参加があった。アンケート結果は肯定的な回答が多く目標を達成できた。 ③ 公開講座は対面とオンラインを別々の日に行っているため、次年度は参加者の希望に合わせて対面でもオンラインでも参加できるハイブリッド開催の方向とした。今年度は県民だよりや千葉日報での告知が叶わず事前申し込みが少なかつたため、申込期限の延長や当日参加の対応をした。公開講座の広報については今後の課題となった。 ④ 介護予防を目的とした高齢者対象の「ほい大健康プログラム」を千葉市内 UR 団地で 3 回、いすみ市で 2 回、幕張キャンパスで 2 回実施した。述べ 68 名の方に参加いただき、アンケート結果は満足度が高く目標を達成できた。 ⑤ 3 月 12 日に開催の FD において今後の方向性を検討する予定である (2 月 28 日現在) ・ 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> ① 本学が果たす社会貢献事業の 1 つである「ほい大健康プログラム」について、全教職員にこれまでの経緯や現状、課題について周知し、今後の方向性について意見交換することができた。今後はさらなる質向上を目指し 3 月 12 日開催予定の FD の結果を反映させたい (2 月 28 日現在)。 ② 公開講座は、対面開催は 10 代から 70 歳以上、オンライン開催は 10 代から 60 歳代の年齢層から参加があり、講演に対する感想は「参考になる」「役に立つ」等の内容が認められた。 ③ 公開講座の事前参加申し込みが例年より少なく、期限の延長や当日参加の受付により参加者数を確保した。次年度は早めに告知手段を確保する必要がある。今年度対面のみで開催した 1 回目の公開講座に対してオンラインの要望が寄せられたり、アンケート結果からオンラインの利便性の回答が認められたりしたことより、今後はハイブリッド開催とすることで回数を 1 回にまとめるなど検討したい。 ④ ほい大健康プログラムを計画の通り実施し、いずれも参加者のアンケート結果では満足度は高かった。本学の社会貢献として、学生を含めた連携体制のもとプログラムを継続していく

<p>必要性がある。今後は大学事業として予算を確保し、担当者の体制やプログラムの評価方法について検討したい。</p> <p>⑤ ①に記載した、FDの中で「ほい大健康プログラム」の今後の方向性について意見交換を実施する予定である（2月28日現在）。</p> <p>・ 申し送り事項 ほい大健康プログラムは学内の実施体制を整備し、プログラムの効果判定や普及について運用方法を検討する。いすみ市においては、学生の学びの場として活用して欲しいとの要望をいただいているため、学生参加を継続していくことが必要。公開講座は、対面とオンラインのハイブリッド開催を検討する。</p>
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>社会のニーズを把握し、地域住民に情報発信を行い社会貢献ができている。本学の特徴であるほい大プログラムの効果判定や普及についての運用方法の検討、公開講座の開催方法の検討が期待される。</p>
<p>委員長：木内千晶</p>
<p>総括委員長：佐藤紀子 面接日：2024年2月26日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：栗原涼子</p>

自己点検・評価委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を検討・実施する</p> <p>③IRの機能を促進する</p> <p>④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①令和4年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。 各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していく。 委員会の令和4年度目標の達成度から、委員会の所掌について検証する。</p> <p>②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された【優れた点】について、継続・発展させる。 【改善を要する点】【今後の進展が望まれる点】について早急にスケジュール・責任部署の計画を立て、対応を検討する。</p> <p>③卒業時調査や適宜実施される学生調査の分析、結果を公表する。 ・卒業生調査の分析および結果を公表し、本学の教育の質評価の検討を行う。・IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表する。 ・各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行う。 ・教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を開始する。 ・各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を行う。</p> <p>④重点施策の担当項目である大学組織に関する項目について、将来構想検討委員会で令和5年度の担当（責任）委員会の再検討を依頼する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <p>・ 達成事項</p> <p>① 令和4年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。 ・令和5年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」の作成準備を進め、例年通り3月下旬に完成予定である（2月21日現在）。 ・評価表記入手引きの改善や評価結果一覧表の追加をした。 ・令和4年度教育研究年報の発行を予定通り年内に行った。令和5年度年報は、年度内に執筆依頼をすることで、執筆者の退職や異動に伴う対応をスムーズに行えるよう、スケジュールを前倒した。</p> <p>② 認証評価で指摘のあった項目について、対応する部署から本年度の進捗状況を調査した。</p> <p>③ 卒業時調査結果を6月に報告した。 ・卒業生調査の中間報告書を10月に提出した。令和6年3月に最終報告をする予定である（2月21日現在）。 ・IR部会でIRコンソーシアムのデータ活用では検討を進めているが、分析結果提示には至らなかった。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業は継続して実施した。 ・教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を、教育研究年報作成部会にて開始し、今後のデータ活用への土台を構築できた。</p> <p>④重点施策の担当項目である大学組織に関する項目の再検討は実施しなかった。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の理由と改善策 目標①、②、③は概ね達成できた。IR 機能促進においては、複数の学生調査や年報の量的データなどの集約は達成できたが、分析を進めるには現体制では作業量が多く困難であるため、集約データ活用の検討が必要である。目標④重点施策については、大学組織の定期的検証システム確立への課題をふまえ、次年度からの新たな取組みを推進していく。 ・ 申し送り事項 ①「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して学内の円滑な自己点検・評価を推進する。各委員会の所掌の確認や連携の検討を継続する。 ②大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された内容への対応を進める。 ③IRの機能を促進するためのシステム検討を行う。 ④大学組織の定期的検証を行い、必要に応じて組織の見直しをする体制を構築する。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>(理由)</p> <p>具体的な活動計画に基づき、実施されている。IR 機能促進における学生や教員への調査データの集約と活用や、大学組織の定期的検証システムの確立に取り組まれることが期待される。</p>
<p>委員長：平岡真実</p>
<p>総括委員長：大川由一</p>
<p>面接日：2024年2月21日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉</p>

将来構想検討委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <p>①千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する</p> <p>②社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する</p> <p>③保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する</p> <p>④自律的な大学運営に向けた検討を行い、本学の方針を明確にする</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>①-1 今年度の各委員会・学科専攻の重点施策の目標・評価の点検（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月初に重点施策の担当（責任）部門等に今年度の目標と評価指標の設定を依頼 ・本委員会で各項目の点検担当を決定し、目標および評価指標の妥当性を検証。適宜、修正を依頼し、6月末に確定 ・2～3月に同様の手順で評価検証を実施 <p>①-2 令和6年度以降の各委員会・学科専攻の重点施策の目標設定（新規）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点施策のこれまでの評価結果および千葉県保健医療計画の評価をふまえ、継続課題と新規課題を抽出 ・抽出された課題について、令和6～10年度（5年間）の目標設定を関係委員会・学科専攻に依頼し、委員会で審議 <p>②-1 教員懇談会の実施（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学でこれまで取り組んできた社会貢献事業の成果を教員間で共有し、理解・関心を高めるとともに、今後の発展に向けた意見交換を目的として実施（社会貢献委員会との共同開催とし、7～8月頃を予定） <p>②-2 健康福祉部への取組報告会の実施（継続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉部関係課の本学への理解・関心を促進するとともに、今後の取組に反映させるための意見交換を実施（11月頃を予定） <p>③健康福祉部で行われる「大学のあり方勉強会」と連動させ、本学に求められる機能充実の方策を検討する</p> <p>④法人化、ワンキャンパス化の必要性を整理する</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 ①-1 4月に今年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備。5月に関係部門に目標・評価指標の設定を依頼し、点検・修正後、6月の全学運営会議で報告し承認を得た。1月末に関係部門に今年度の達成状況の評価を依頼し、委員会で検証した結果を3月の運営会議で報告する。 ①-2 12月に関係する委員会委員長や学科・専攻長に対して、重点施策の成果や継続課題、新規課題の整理を依頼し、それをふまえて委員会で検討した。3月の大学運営会議にて審議の予定。 ②-1 3月12日（火）16時～17時30分 B111講義室において、「将来構想にかかる情報共有会・意見交換会」を、社会貢献委員会との共催にて実施する予定。 ②-2 11月2日（木）11時～12時 千葉県庁本庁舎において取組報告会を実施。参加者28名（健康福祉部14名、本学14名）。詳細については令和5年度大学紀要に掲載。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の理由と改善策 目標①②に関わる取組は、一部時期を変更したが、ほぼ計画通りに実施することができた。①-2については、継続審議中だが、3月の大学運営会議には最終結果を確定する見込みである。

大学の将来構想については、大学院の設置に向けたWGを立ち上げ、具体的な検討を開始することができた。今後も、健康福祉部との連携をはかりながら、必要な検討を進めていく必要がある。法人化やワンキャンパス化についても、大学院の検討の中で状況が進展する可能性があり、その動きに応じて教員懇談会や情報共有会の場を設けるなどして、全学的な検討を進める必要がある。

・ 申し送り事項

大学院設置を含めた大学の将来構想に関わる健康福祉部の検討が進展する可能性があるため、その進展にあわせ、委員会またはWGで適宜検討を進める。あわせて教職員へのタイムリーな情報提供・意見集約に努め、適宜、教員懇談会などを開催する。県への取組報告会は継続して実施する。

令和6年度より開始となる新たな重点施策について、関係委員会、学科専攻との連携をはかりながら取り組み、その進捗を管理する。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由

5特に優れている 4目標を上回っている 3目標に達している 2やや問題あり改善余地あり 1問題あり改善必要

(理由)

目標に向かう具体的な活動計画に基づき、順調な実施がなされている。状況が進展する可能性がある中、具体的な課題提示と柔軟な対応を実現できる申し送り事項になっていると考えられる。

委員長：河部房子

総括委員長：大川由一

面接日：2024年2月27日

自己点検・評価実施推進部会：雨宮有子

総務・企画委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>① 優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子、空調設備、プロジェクター等）の整備</p> <p>② 令和6年度に向けた予算要求</p> <p>③ 整備計画にもとづく学習環境整備の進捗状況の検証、教員および学生による継続的な評価</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <p>① 令和5年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。</p> <p>② 令和6年度の予算請求は各学科専攻に対して行った意向調査及び長期整備計画に基づき行う。</p> <p>③ 各教室の机・椅子などは長期計画を立てて整備する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な結果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 ① 全学整備品については、本年度は280万円の予算が決定されたことから、令和5年度第1回委員会にて優先順位を決定し、当該順位に基づき備品を整備した。 ② 全学整備品及び各学科・専攻等の備品についての令和6年度当初予算請求は、令和5年度第1回委員会にて学内照会について承認された後、令和5年5月9日に学内へ依頼を行った。その他、回答を取りまとめ、第3回、第4回委員会で審議し、委員会として当初予算案を決定した。 ③ 昨年度より審議されていた幕張キャンパス大講義室のプロジェクターについては、昨年度の委員会では令和5年度に修繕することになっていたが、当初予算で計上されてなく、補正予算請求での対応が難しいことから、緊急的対応として令和5年9月末に操作卓の交換、HDMI対応、操作卓にスクリーンスイッチの設置などを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価結果の理由と改善策 整備計画に基づき、学内環境の整備及び予算請求等を目標通り行うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送り事項 大講義室プロジェクターの整備。A棟の机・椅子の整備を順次行う。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p> <p>（理由）</p> <p>学内環境の整備、調査に基づいた予算請求など、目標どおりに実施されている。次年度以降、大講義室プロジェクターの整備、A棟の机・椅子などの整備が順次期待される。</p>
<p>委員長：石川裕子</p>
<p>総括委員長：大川由一</p> <p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：栞原涼子</p>

広報委員会 活動達成状況点検・評価表 (2023 年度)

<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスの来場者の増加 2. 受験情報サイト、ホームページでの広報の充実のための方策と予算の検討 3. ホームページと広報誌による研究活動の情報発信
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症に対する感染防御をふまえて、来場者の増加を図るオープンキャンパスを企画し運営する。 2. 受験情報サイト、ホームページでの広報の充実のための方策を検討する。 3. ホームページ更新体制の強化を行う。 4. ホームページの研究活動の情報と連動する広報誌を作成し、配布する。
<p>3 目標達成度 (自己評価)</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <p>オープンキャンパスでは、新たに Web による事前予約の方法を導入し、手続きの円滑化を図るとともに、スケジュールの見直しによる来場者数の増加に取り組んだ。来場者数は、全体で 1436 名、内訳は看護学科 811 名、栄養学科 279 名、歯科衛生学科 68 名、理学療法学専攻 178 名、作業療法学専攻 100 名であった。前年度比約 91.7%の結果であった。</p> <p>ホームページの広報について、歯科診療室の写真の変更など、古い情報を新しい内容に更新するとともに、令和 5 年度新たに着手した内容として、デュアスロン国際大会に入賞した学生へのインタビュー内容を新たに掲載することができた。また、SNS において、オープンキャンパスや公開講座などの行事、専攻の活動紹介などの情報発信は 46 件 (2024 年 1 月現在) に上り、精力的に広報活動を展開することができた。</p> <p>ホームページ更新のためには、教務や入学試験、オープンキャンパス、大学案内編集、公開講座などの準備等に係ることから、適切な時期に確実に情報更新できるよう、それぞれの所掌事項に関するガントチャートの作成に着手した。</p> <p>広報誌編集について、本学の研究受託体制の整備を要すると考えられることから、本年度創刊の広報誌は、大学案内を補完する大学の活動報告を主とする内容として、2024 年 3 月発行を目標に編集作業を行っている。</p> ・ 評価結果の理由と改善策 <p>オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症となり、通常開催に近い形式で開催することができた。Web 予約は、千葉県電子申請サービスでフォームを作成して受け付けた。予約したが当日不参加だった者、予約をしておらず当日参加の者が一定数いた。予約制は新型コロナウイルス感染症対策として実施していたものであり、令和 5 年度には制限が緩和されたことや、予約と実態の乖離を鑑み、令和 6 年度は予約を行う必要は無いと考えられる。</p> <p>ホームページや SNS を活用した広報活動について、古い情報は随時更新するとともに、ホームページに新たな形式の情報発信を行い、委員会や教員から広く情報提供され、発信することができるようになった。</p> <p>広報誌創刊に向けて編集を行っている。</p> <p>受験情報サイトで、大学の情報発信に関する検討ができていない。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスにおいて来場者の予約時間や動線を再検討し、来場者の増加を図り、また待ち時間を少なくして過ごすことができるように工夫する。 ホームページの更新を継続する。 ホームページ更新に係る所掌の計画を明確にして、確実な更新ができるようなシステムを構築する。 大学案内、広報誌を編集・発行する。 「ゆめナビ」等の受験情報サイトに、大学の情報発信について検討する。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>オープンキャンパスは、コロナ前の通常に近い方法での開催ができるよう、県システムによる事前予約導入、スケジュール見直しを行うなど、委員会の尽力により円滑な運営が行われた。来場者減少の要因について全学的に多面的な評価を行い、今後にかされることを期待する。大学広報は、ホームページや大学案内の更新、SNS 情報配信に加え、ホームページへの新しい記事掲載や、広報誌の創刊に着手するなど積極的な情報発信活動を行っており、目標に達する活動ができている。</p>
<p>委員長：酒巻裕之</p>
<p>総括委員長：大川由一</p>
<p>面接日：2024年2月21日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介</p>

衛生委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

1 目標
1) 職員の危険及び健康障害を防止するための基本対策を策定し実施する 2) 職員の健康の保持増進を図るための基本対策を策定し実施する 3) 公務災害の原因及び再発防止策で衛生に関する対策を実施する
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) 産業医・安全管理者による定期的な構内巡視とそれに基づく改善 2) 学生・教職員に対するポストコロナでの学内での健康障害防止と健康保持への取り組み 3) 職場の心のケアの増進（ストレスチェックとフィードバック）
3 目標達成度（自己評価）
<input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満な結果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ●産業医による定期的な構内巡視の実施 ●労働安全衛生法で定めのある環境測定の実施予定(栄養学科及び歯科衛生学科で使用する化学物質が対象) ●衛生委員会にて、構内の労働衛生上の問題の把握と改善の討議 ●コロナ後のインフルエンザなど感染症対策及び予防への情報提供 ●ストレスチェック実施と高い受診率 ●職員に対してメンタルヘルスケアの研修会の実施 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>労働衛生環境は比較的保たれており、ポストコロナの移行のもと、感染対策を含めて学生及び職員の学内での健康障害防止・健康保持への有効な取り組みが行われている。</p> ・ 申し送り事項 <p>引き続き、安心安全な職場環境の保持と、職員の健康増進をはかる。</p>
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要 (理由) 産業医による構内巡視やポストコロナにおける感染症対策の整備など計画通り実施されている。メンタルヘルスケア研修会やストレスチェックの実施など、職員の健康の保持増進に向けた継続的な活動が期待される。
委員長：龍野一郎
総括委員長：大川由一
面接日：2024年2月26日
自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉

危機管理委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <p>1) 「危機管理の方針」（2022年度に「危機管理の手引き」を改め）を策定する。</p> <p>2) 「危機管理の方針」に則り、関連する委員会における危機管理マニュアルが検討される。</p> <p>3) 大学における危機に対応した事業継続の方針を明確にする。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画（項目数字は目標に対応する）</p> <p>1) 昨年度の引継ぎ事項である「危機管理の方針」の最終点検を行い、大学運営会議、評議会の承認を得る。</p> <p>2)-1 FD/SD を開催して「危機管理の方針」を教員に周知する。</p> <p>2)-2 危機管理委員会が対応する危機管理マニュアルを作成する。</p> <p>3)-1 消防避難訓練をマニュアルに則り実施し、事後アンケートから今後のあり方を検討する。</p> <p>3)-2 地震・津波を想定した災害避難訓練の実施の必要性を検討する。</p>
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 および 評価結果の理由と改善策 <p>「危機管理の方針」を完成させ、大学運営会議、評議会の承認を得た。その後、危機管理委員会が対応する危機管理マニュアルを含む、大学内の危機管理に係る規則等の一覧に従い、各委員会で所掌しているマニュアルを、各委員会に所属している危機管理委員に毎委員会時に変更や修正について確認した。危機管理委員会が所掌する「防犯カメラ設置・運用基準」について、これまでの運用を確認していなかったため、実際のカメラの位置、映像の管理について、企画運営課を通して業者に確認した。必要時、専用の映像システムで映像を閲覧できることを確認した。また、Jアラート対応マニュアルについて、学内の所掌が明確ではなかったが、本委員会が担当するマニュアルであることを確認した。災害対応（危機対応）初動マニュアルは、県庁のBCPとのずれが指摘されているため、今後、すり合わせが必要である。「危機管理の方針」のFDは、委員長が抱える他の大学管理に関するFDを優先し開催が遅れた。2月20日～3月1日の期間でオンデマンドによる開催を行った。</p> <p>緊急時連絡網について、全教員に対して個人電話番号を露出させる抵抗感、災害時の通信手段としての脆弱性から、代替の方法について時間をかけて検討した。県庁危機管理課から複数の連絡方法の確立が望ましいという回答もあり、第2連絡方法を従来の電話連絡とし、学科ごとに組織・管理することにした。また、各学科専攻で確認した意見を踏まえ、第1連絡方法はChatLuckと決定した。</p> <p>消防避難訓練は例年どおり、マニュアルに則り幕張/仁戸名キャンパスで実施した。事後アンケートから、防火訓練だけではなく、地震、津波災害に関する訓練の必要性が寄せられた。仁戸名キャンパスでは地震発生を想定したシナリオとしているため、次年度は幕張でも取り入れる方針である。</p> <p>今年度の目標以外の活動について、危機管理委員会規程の見直しを行った。第5条（1）副学長を削除し、リハビリテーション学科は各専攻1名へ変更した。また、全学科とも委員2名のうちの1名は講師以上とした。また、第3条（3）学内情報システムに関する業務および第5条 ネットワーク管理者を削除した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 申し送り事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな緊急時連絡網での伝達訓練を行う。 ・ 災害対応（危機対応）初動マニュアルとBCPのすり合わせを行う。 ・ 幕張キャンパスにて地震発生シナリオでの訓練を行う。 ・ Jアラート対応マニュアルの見直しを行う。

5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由	
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要	
(理由)	
継続事項であった目標も含め達成できている。新たな体制での訓練実施等、現実的な実践レベルでの導入につながる申し送り事項であると考えられる。	
	委員長：春日広美
	総括委員長：大川由一
	面接日：2024年2月22日
	自己点検・評価実施推進部会：雨宮有子

人事委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

1 目標
1) 教員組織の定期的検証を実施する。 2) 教育の質を継続的に保証する教員組織の検討、対応を行う。
2 目標達成のための具体的な活動計画
1) (A) 令和5年5月時点での「教員組織の定期的検証」を実施する。 (B) 基準を十分満たすよう人事組織編成の検討を行う。 2) 主要と認める「専門必修科目」について教授又は准教授が担当する比率を高めるよう、教員組織を含めて検討を行う。(機関別認証評価結果)
3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/> 5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/> 4 目標以上の成果 <input checked="" type="checkbox"/> 3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/> 2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/> 1 非常に不満足な結果
4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員組織の定期的検証を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> (A) 令和5年度「教員組織の定期的検証」を実施し、10月大学運営会議へ報告した。概ね基準に達していると評価された。 (B) 基準を十分満たすために人事組織編成の検討が必要とされる項目を明らかにした。 <ul style="list-style-type: none"> - 「主要科目」理学・作業療法学専攻の教授・准教授増と欠員解消が実現し改善が期待される。 - 「管理栄養士養成、理学療法士養成」年度内に欠員解消予定である。 - 「男女比」理学療法学専攻は女性0%で、今後改善が望まれる。 - 「博士号取得率」講師(70%)とは別に助教の目標基準を40%に変更した。 2) 教育の質を継続的に保証するため、主要と認める「専門必修科目」について教授又は准教授が担当する比率を高めるよう委員会は教員組織の検討を続けてきた。特に大学設置基準の最低数であったリハビリテーション学科教授の人数・割合を増やす必要が示されており、本年度作業療法学の教授1名増（准教授1名減）、理学療法学専攻の准教授1名増（助教1名減）とした。 ・ 評価結果の理由と改善策 <p>目標通り、年度ごとの「教員組織の定期的検証」を実施し、概ね基準に達していることを明らかにした。加えて、教育の質を継続的に保証するために教員組織を一部変更し、教授・准教授の割合増を実現できた。</p> ・ 申し送り事項 <p>引き続き、来年度も以下2点を目標・活動計画とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「教員組織の定期的検証」を5月1日基準で毎年行い、教員組織の管理・点検を継続する。 ②教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。(大学認証評価結果)
5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由
<input type="checkbox"/> 5 特に優れている <input type="checkbox"/> 4 目標を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 3 目標に達している <input type="checkbox"/> 2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/> 1 問題あり改善必要(理由)
目標達成のための活動は計画的に実施された。教育の質を継続的に保証するための教員組織の検討、対応が着実に進められている。
委員長：神田みなみ
総括委員長：大川由一
面接日：2024年2月27日
自己点検・評価実施推進部会：荒井裕介

教員再任審査委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員再任審査において、審査方法に則って適正に審査する。 ・審査における点数化基準の明確化をはかり必要に応じて改訂を検討する。 ・公平で効率的な審査に向けた課題の解決策を検討する。
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査方法に従い審査を滞りなく実施する。 ・審査時に判断に迷う基準、項目の確認等に対する意見集約を行い、審査項目および審査基準等の妥当性について検討し、申請時提出書類記載例や審査に関する覚書を洗練する。 ・これまでの議論もふまえ審査方法や審査体制、審査対象期間に関する課題の解決策を検討する。
<p>3 目標達成度（自己評価）</p> <p><input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input checked="" type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 教員再任審査対象者（前期 18 名、後期 8 名）の審査を適正に実施した。 評価者から審査時に判断に迷う基準、項目の確認等に関する意見および前年度に作成された審査時の覚書を参考に、審査項目および審査基準等の妥当性について検討し、現行の審査方法等に関する課題を明確化した。他大学の再任審査項目や方法についての情報収集、関連法規との照合を行った。より適切な再任審査方法とするため、再任用に関する規程と委員会規程を修正し、改正につなげた。課題の解決策として、再任基準及び評価方法等に関する規程を新規に作成し、大学運営会議で審議中である。また申請業務の効率化をはかるため、新しい審査書類を作成した。前年度から引き継がれていた審査対象期間に関する課題についても検討し考え方を整理した。 ・ 評価結果の理由と改善策 再任審査は申請者が多い年であったが、専門部会を設置し適正に審査を実施できた。審査書類の記載例や覚書の洗練、審査における課題の解決策の検討だけではなく、規程の改正や報告様式の作成、新規規程案の作成といった解決策が実行できたことは目標以上の成果であった。 ・ 申し送り事項 再任基準及び評価方法等に関する規程の洗練と大学運営会議における審議、またこれらの規程に基づく審査項目や方法についての学内者への周知と、運用における問題の抽出が必要である。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由</p> <p><input type="checkbox"/>5 特に優れている <input checked="" type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要</p>
<p>(理由)</p> <p>適切な再任審査方法とするため、再任用に関する規程と委員会規程の修正を行い改正につなげた点、申請業務効率化のための新規審査書類の作成等、目標以上の成果活動を着実に実行している。今後も公平で効率的な審査が期待される。</p>
<p>委員長：小宮浩美</p>
<p>総括委員長：大川由一</p>
<p>面接日：2024年2月22日</p>
<p>自己点検・評価実施推進部会：栗原涼子</p>

キャンパス・ハラスメント防止対策委員会 活動達成状況点検・評価表（2023年度）

<p>1 目標 学生、事務職員、教職員に対してハラスメントの基礎知識を周知し、学内で生じたハラスメントに適切に対応する。</p>
<p>2 目標達成のための具体的な活動計画 1) キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの問題点の整理・改訂 2) ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂・周知 3) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施</p>
<p>3 目標達成度（自己評価） <input type="checkbox"/>5 大変満足のいく成果 <input type="checkbox"/>4 目標以上の成果 <input type="checkbox"/>3 ほぼ目標通りの成果 <input checked="" type="checkbox"/>2 やや不満足の結果 <input type="checkbox"/>1 非常に不満な成果</p>
<p>4 達成事項、評価結果の理由と改善策、次年度への申し送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成事項 学内ハラスメント研修会(2023年12月13日)を開催しアンケートを実施した。35名の参加者のうち22名の教職員アンケートが回答し、満足度は満足:41%(9/22)、やや満足:45%(10/22)であり概ね高い満足度であった。 ハラスメント対応に関するフローチャートに関して、学外の臨床心理士が関わるのが適切と考え、ハラスメントに対応いただける臨床心理士（非常勤）雇用のための予算申請を行った。 ・ 評価結果の理由と改善策 キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの問題点の整理・改訂には着手できなかった。今年度は学内で生じたハラスメント案件への対応に追われて相談員マニュアルの問題点の整理・改訂まで着手できなかった。 ハラスメント対応に関するフローチャートは、次年度以降ハラスメント対応臨床心理士が雇用できるかによって変わってくるため次年度以降に改訂する必要がある。 学内で相談のあったハラスメント案件は調査委員会を立ち上げて調査中である。 ・ 申し送り事項 キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの改訂、ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂を行う。
<p>5 自己点検・評価実施推進部会による評価と理由 <input type="checkbox"/>5 特に優れている <input type="checkbox"/>4 目標を上回っている <input type="checkbox"/>3 目標に達している <input checked="" type="checkbox"/>2 やや問題あり改善余地あり <input type="checkbox"/>1 問題あり改善必要 (理由) 教職員を対象とした研修会の開催やハラスメントに関する学内調査の実施が予定通り進められている。今年度十分に着手できなかったキャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの改訂に加え、ハラスメント対応に関するフローチャートの改訂に関して継続的に検討されることが期待される。</p>
<p style="text-align: right;">委員長：山本達也</p>
<p style="text-align: right;">総括委員長：大川由一</p>
<p style="text-align: right;">面接日：2024年2月27日</p>
<p style="text-align: right;">自己点検・評価実施推進部会：成田悠哉</p>